

第一回異業種交流会の開催

1. 異業種交流会の目的・経緯

業務委員会では技術士の知名度を向上させ社会貢献度を増すために技術士業務の開拓を行っています。その一環として従来から弁護士会との意見交換会を行ってきておりますが、本年度、内向き思考となりがちな技術士の現状の打破を目標として異業種交流会を企画しました。これは異分野のコラボレーションによりお互いに Win-Win の関係を築くとともに、提携により社会における分野横断型の潜在的ニーズへの対応や新たな分野創出への可能性を模索することを目指したものです。第一回目の交流会として建築学会北海道支部を選定しましたが、この理由は以下のとおりです。

- ・北海道では技術士建設部門が特に多くインフラに直結する分野での交流で地域社会に大きな効果が見込まれる。
- ・一般に土木と建築は同業種と認識されるため技術士の世界でも建設部門＝土木・建築として両者は同一視される傾向にあるが、技術士の位置付けという観点では似て非なるものである。
- ・建築業界では技術士の存在感は希薄である。
- ・一級建築士は職業独占資格であり、建築業界では名称独占資格である技術士の必要度は低い。

一方、建築学会北海道支部側にとっても、建築学会の一般社団法人化に伴い、公益性の視点を含めた大幅な改革が近々予定されており、開かれた学会運営を目指しているとのこと。もともと、北大など複数の大学高専で JABEE を取得し、建築と技術士との接点は制度上はある中で、新たな試みとして技術士北海道本部から交流会を提案し、建築学会北海道支部にご賛同頂きました。交流会は 9 月 13 日

(火)に開催し、参加者は建築学会の産官学の多様な専門分野から 8 名の方々、業務委員会から 10 名の出席で行われました。



建築学会の方々（奥側）

(建築学会北海道支部出席者)

角 幸博	北大	支部長	歴史意匠
駒木 定正	北海道職能大	代議員	歴史意匠
菅野 彰一	北海道日建	代議員	計画
後藤 康明	北大	常任幹事	構造
斉藤 雅也	札幌市立大	常任幹事	環境
前田憲太郎	道工大	常議員	構造
横山 和俊	大成建設	常議員	施工
渡邊 和之	北方建築総研	常議員	構造

(日本技術士会北海道本部出席者)

田中 輝幸	伊藤組土建	委員長	建設・総合
植村 豊樹	構研エンジニアリング	幹事	建設・総合
岩田 徳夫	岩田地崎建設	委員	建設・総合
川野 恭司	地域計画センター	委員	農業・総合
対馬 一男	北武コンサルタント	委員	建設・総合
中西 紀雄	ドーコン	委員	建設・総合
篠原 安	嵯峨測量設計	委員	農業
外 朝彦	池田暖房工業	委員	衛生
小山田応一	通電技術	委員	電気電子
宮本 真一	北武コンサルタント	委員	機械

2. 技術士とは？

まず、田中委員長、植村幹事から技術士の本来の目的と現状について説明を行いました。(以下要約)

- ・戦後日本は産業育成と製品輸出で急成長。原動力は科学技術の専門性・応用能力の発揮。
- ・優秀な製品(社会基盤を含む)をつくるための技術向上に資する目的で技術士は1958年に誕生した。
- ・技術士は21部門もの大きな領域を対象としている。
- ・技術士は一般の人々と向き合うことが少なく国家五大資格の中でも知名度は低い。



司会の岩田委員

3. 建築学会から見た技術士に対する評価・意見

続いて建築業界から見た自由意見をまとめます。

①技術士に対する印象について(建築業界サイドから)

- ・技術士は役所の仕事には役立つが民間業務では否。
- ・建築士業務には法規制があるが、技術士にはない。
- ・建築士の仕事の内容は一般人にも想像できるが、技術士の仕事は一般の人々には何をやっているのかわからない。技術士はつかみ所のない資格。
- ・技術士は取得するのに非常に困難な資格。技術士は技術能力の証明、第三者的評価の指標になる。
- ・技術士は技術者倫理も評価し建築士とは格が違う。

②建築業界での建築士の現状

- ・建築の仕事は民間が主であり、一級建築士の資格は持っているのと持っていないのでは対応異なる。

- ・建築士は過去の耐震偽装問題で予想以上のダメージがあり、今も信頼回復に努めている段階である。
- ・建築士の資格も技術士同様、大学教授にとってはメリットなし。

③建築業界における技術士の必要性について

- ・大手建設会社でも建築部門での技術士取得者数は極端に少ない。技術士の目的も理解されていない。
- ・大学の授業では技術者倫理についてどうしても現実感がないものになってしまうため、実際に体験している技術士から話を聞くというのも一つの案。

④JABEEの実際と今後について(教育の立場から)

- ・技術士会では小中学生・シニアを対象に野外キャンプや理科出前授業等に10年前から取り組んでいる(対馬委員)。
- ・厚労省の職能大学では技術士は博士相当の待遇。
- ・建築学科でJABEEを取得するメリットが不明、学生にとって魅力あるプログラムとはなっていない。

JABEEについては後藤教授に国際化の観点から北大(建築)の取組みについて説明いただいた。(以下要約)

- ・文科省は建築技術もWTO技術貿易の対象とすべく国際化を目指す方策の一環としてJABEEの取得を推奨した。北大では国内法に基づく資格である建築士の国際化に取組み、国際化が先行している技術士への道を開く必要があると考えJABEEを取得したが、卒業生はほとんど技術士を取得せず成果は得られていない。APECエンジニア制度はあるが技術士のさらなる国際標準化が必要と考えている。
- ・また、JABEE単独による国際化の道が行き詰まったこともあって、UIA(国際建築家連合)による建築士の国際標準化を目指す試みも行われてきた。これはJABEEと絡めたプログラムとなっていたこともあり、結果としてJABEEを通じてステップアップする建築士の国際化へ

の道も行き詰っている。

4. 総括

最後に角支部長、田中委員長の間で今回の交流会を起点として今後も交流を継続することで合意しました。建築業界と技術士・技術士会の産官学連携の可能性についても若干話しましたが、今後議論を熟成させていくことになりました。田中委員長から技術士に関して総括があり、私の意見も交えると、

- ・技術士は国交省では優位資格であるが、他ではほとんど通用せず一般的にも認識されていない。しかし、日本の優秀な製品を生み出してきた技術士(トップエンジニア=潜在的技術士を含む)は、研究・開発・計画・設計・製造のPDCAサイクルを世界トップレベルに引き上げてきた。技術士21部門は科学技術立国における引き出しであり、大震災後世界潮流の激変の中、地域そして日本の産業を推進するブレインであり続けなければならない。
- ・欧米では自らを I'm a professional engineer! と呼び、エンジニアに対する一般認識度は格段に上である。我々は技術士をこのような格のある地位に向上させ、社会貢献度をさらに上げていきたい。

として今回の報告を締めくくりたいと思います。